

## JR東労組青年部「2023沖縄平和研修」

## Part⑤

本部青年部情報誌「POINT」の45号に引き続き、5月13日～15日に開催された、「JR東労組青年部2023沖縄平和研修」についての情報になります。沖縄の地で学んだことを紹介していきます。

### ⑫ 辺野古基地問題について

辺野古は沖縄県北部の名護市にあります。辺野古の海は美しいと言われていて、水質も沖縄本島では少ない「Aランク」とされています。ここにはサンゴ礁だけでなく、絶滅危惧種のジュゴンが生息しています。しかし、2014年7月6日、普天間基地の代替地として辺野古移設が提案されました。辺野古移設に反対する民意があることや、豊かな自然環境が破壊されてしまうことなど、新基地建設反対を掲げ現在も反対運動を続けています。



### ⑬ 辺野古テント村のたたかい

キャンプシュワブゲート前には多くのテントが立っています。仲井真知事(当時)が2013年12月27日に埋め立てを承認しました。沖縄県は国に対して、2018年8月31日、「撤回」を表明し、工事は一時的に中断しました。その間、翁長前知事の逝去に伴う沖縄県知事選が行われ、「オール沖縄」が推薦する玉城デニー氏は、政府与党が推薦する候補を大差で破り、沖縄県の民意は「新基地建設反対」で固まりました。しかし、この民意を嘲笑うかのように、国は行政審査法を都合よく運用し、工事を再開させ、ついに2018年12月14日から海への土砂投入が強行的に行われました。2022年12月13日、松野官房長官は記者会見で、米軍普天間飛行場返還に伴う名護市辺野古の新基地建設を巡り、11月末時点で辺野古側(41ヘクタール)を埋め立て、海域に土砂約264万立方メートルを投入したと明らかにし、埋め立てが「着実に進んでいる」と強調しました。埋め立て全体に必要な2020万立方メートルの約13%に当たります。現在、辺野古での座り込みは資材搬入のある9時、12時、15時の1日3回実施しています。その時間帯には人々が搬入ゲートに座り込み、工事車両などに抗議の意志を表明し続けています。環境や住民の生活を壊してでも、すべては企業(大手建設会社ゼネコン)の金儲けの為であることを私たちは忘れてはなりません。

### ★研修参加者の感想★

- ・実際に行ってみて想像をはるかに超える残酷さ。無念で亡くなった人を考えると目頭が熱くなる。
- ・現地で説明を聞いて、何も考えずに基地は必要だと考えていたし、ネットやSNSの情報を鵜呑みにしていた。自分自身で考えることの大切さを学んだ。
- ・研修に参加したことで、基地問題について考えることができるようになった。
- ・座り込みを行い、今までの自分は沖縄の人々の想いに立っていたのかと問われたと感じた。
- ・沖縄の現実を新聞投稿などを通じて出来るところから実践していく。

**平和な世の中をつくるため多くの仲間が発信していこう!**